



# フロンティアスピリットで 切りひらく日本の未来

三井物産会長

## 安永 竜夫

やすなが たつお

### 世

世界的な経済格差の拡大、異常気象、生態系の崩壊、欧米と異なる価値観を有するグローバルサウスの台頭、パワーバランスの変化による世界の分断・対立、生成AI等の先端技術の登場など、世界の変化は加速し、ますます先行きの見えづらい混迷する時代をわれわれは生きている。

経済面に目を向けると、デジタル関連をはじめとする最先端技術は米国・中国がリード、世界の工場としての役割は中国や東南アジアが担い、気候変動を踏まえた新たなビジネスモデルは欧州が官民を巻き込みルール作りから主導している。そうした中、多くの分野で日本企業の存在感は低下し、製造大国・貿易立国としてのかつての成功体験に引きずられ、変化の激しいこの時代にそのビジネスモデルをアップデートできないのではないのではと危惧する。今後、さらなる少子高齢化は不可避で、2040年には労働人口が1千万人以上不足するとされる中、日本が再び輝きを取り戻すにはどうしたら良いか。

政治・社会・教育等、多くの面で抜本的な改革が必要だが、経済における突破口の

一つはグローバル市場、なかでもインド・ブラジル等のグローバルサウス諸国にフロンティアスピリットを持って果敢に挑戦することではないか。なぜグローバルサウスなのか。日本の課題である労働力減少や市場縮小、資源確保・脱炭素対策の解決につながる諸条件を有するという意味合いはもちろん大きい。だがそれと同等に、あるいはそれ以上に大きいと感じるのは、こうした伸びゆく国のあふれる活力・ダイナミズムに接することがわれわれのマインドセット変化につながるからだ。自分自身、これらの国々を訪問するたびに多様な価値観に視野が広がるとともに、そのダイナミズムに体温が上がるのを感じる。日本がこれまで長年にわたり築いて来たグローバルサウス諸国との信頼関係、ゼロサムではない包摂的なアプローチ、そしてどの国もいざれ迎える課題先進国としての立ち位置は、われわれの大きな武器だ。

必要なのはガラパゴス化を避け、グローバル市場に身を置く覚悟だ。経団連の一員として、新たな時代を切りひらく心意気を持って、日本が直面する多くの挑戦に対する現実解と、何よりも元氣をもたらしたい。